



豊田講堂（登録有形文化財）

人と人との交流が生む新たな価値 多様性と自由闊達な学風のもと まだ見ぬ未来を拓く「知の梁山泊」

SUMMARY

18歳人口の急減期を前に多くの大学があるべき姿の再検討を迫られる中、激変する時代の渦に巻き込まれることなく、自ら変化を生み出し、世界に貢献する新たな価値創造の挑戦を続けているのが名古屋大学です。七つの旧帝国大学の中で最も歴史が浅い半面、6人も大学ゆかりのノーベル賞受賞者を数えるのは、建学以来の伝統である「自由闊達な学風」の表れと言えます。

既存の枠組みにとらわれない柔軟性は、2020年度に岐阜大学と「東海国立大学機構」を設立したことにも見て取れます。世界と伍する研究大学へと飛躍する試みを杉山直総長は「ホップからステップへの移行段階」と評価。垣根を越えて人と人とが結び合う「知の梁山泊」はたゆまぬ進化を続けています。

すぎやま なおし
杉山 直総長

1984年早稲田大学理工学部卒業。1989年広島大学大学院理学研究科物理学専攻博士後期課程修了。2022年より現職。東海国立大学機構大学総括理事・副機構長。

01 自由闊達な学風を象徴する 交流・探究の新拠点が生ずる

名古屋大学のランドマークといえば、主要学部が集まる東山キャンパスの中央に位置する「豊田講堂」です。発明家・豊田佐吉を記念する趣旨でトヨタ自動車から寄附を受け、1960年に竣工しました。その名古屋大学に25年7月、もう一つのシンボルが誕生しました。大学と地域、社会をつなぐ新たな共創拠点として、東海国立大学機構が名古屋大学構内にオープンした「Common Nexus（コモンネクサス、愛称：「コネ」）」です。豊田講堂前庭から中央図書館へ伸びる緑豊かなグリーンベルトに位置し、地下鉄の名古屋大学駅とも直結します。名古屋、岐阜両大学の学生・教職員はもちろん、近隣住民や研究者、クリエイター、企業人ら多様な人々が世代や領域を超えて交わる探究の場となっています。杉山直総長は「コネについて、次のように語ります。『本学の自由闊達な学風に通じるような、文系・理系の壁を超えて人と人が交わり合うことを通じて、新しい発想や考え方を生み出す場になってほしいと思っています。英語で学位が取れるG30グローバル30国際プログラムや、NUP ACE（名古屋大学交換留学受け入れプログラム）などを利用して入学してきた留学生と、日本人学生との交流が増えることも期待しています。』さらに、26年秋には、国際的に卓越した研究を展開する新拠点として「NEXUS（リユクイオン）研究棟」が竣工予定です。生命現象を支える重要分子である「糖鎖」の解明と医療・創薬への応用を目指す糖鎖生命コア研究所が拠点を構えるなど、世界基準の研究環境を整備。世界中から集う研究者のゆりかとして、未来の研究者を育み、新興・融合研究の創出を目指します。

02 「勇気ある知識人」の育成に 欠かせない骨太の基礎教育

分な知識・技能を土台とし、ためらうことなく課題に立ち向かう創造性と探究心を持った「勇気ある知識人」を育成し、オンラインでの研究力によって社会や人類全体の課題解決を目指す名古屋大学は22年、「Nextビジョン2027」を策定しました。教育・人材育成マ研究・価値創造マ社会連携・産学連携マ国際展開——という四つの戦略を立て、着実に実行に移しています。

教育・人材育成の観点では、学部初年次から大学院まで切れ目のないリベラル・アーツ教育や、外国語などのコモン・ベーシック教育（基本的なスキルとしての学修）を進めています。22年度から教育カリキュラムを一新し、数理・データサイエンスの強化と初修外国語（第2外国語）の改革を実施。3〜4年次にはリベラル・アーツ教育の一環として、学部を超えたチームで自主的に設定した課題の解決に取り組む「超学部セミナー」も新設しました。

23年に発足したディープテック・シリアルイノベーションセンター⁽²⁾を拠点に、学部から大学院博士課程までを対象とした「アントレプレナリシップ（起業家精神）教育」の展開にも力を入れています。社会に対して新たな価値を提案する姿勢は誰にとっても必要だという考えに



ノーベル賞展示室

03 学びを拡張する国際展開と 分野の壁を越えた融合研究

基つき、25年度からは導入科目を全学教育科目の一つとして必修化。留学生が受講できるように講義の英語化も進めています。

問分野の壁を超えた研究によって、社会課題の解決につながる成果も続々と生まれています。化学と生物学の融合研究を行つたフロンティアマタイプ生命分子研究所は、アフリカの食糧生産に大きな損害を与える寄生植物の発芽を抑制する分子を開発。飢餓解決への貢献が期待されます。宇宙地球環境研究所では、送電や通信に被害を与える自然災害である「激甚太陽風の発生メカニズムを歴史文献に記されたオーロラなど太陽活動の観測記録とひもつけて研究する取り組みが行われています。さらに文系分野のデジタルデータ駆動型研究を進める拠点として、デジタル人文社会科学研究所が24年に発足しました。

「デジタル×人文社会科学で新たな総合知を創出する試みです。中でも面白いのは『ヒューマニクス』というプロジェクトで、生成AIに西洋古典を学ばせ、例えば古代ギリシャのソクラテスに人生相談もできます」（杉山総長）。果敢な国際展開も名古屋大学の強みです。15年には豪阿德レイド大学との間で、日本初となるジョイントディグリープログラム（JDP）を大学院医学系研究科が開設しました。海外大学と共同で博士課程プログラムを運営して一つの学位を授与するJDPを、現在は国内トップレベルとなる5カ国・7大学と実施しています。また22年には新たな国際戦略である「グローバル・マルチキャンパス構想」をスタートしました。海外の有力大学を戦略的パートナー大学（JDPU）に定め、現地への名古屋大学のグ

04 多様性が生む「知の梁山泊」 工学部女子枠をさらに拡充

学ゆかりのノーベル賞受賞者が6人も出た背景には、個性豊かな人材が垣根や壁を越えて切磋琢磨し合う「知の梁山泊」たらんとする名古屋大学の伝統があります。融合研究や産学協同研究、国際展開はその表れですが、学生の多様性拡大に向けた入試改革も進んでいます。

2023年度入試（2024年度実施）には名古屋大学で初となる総合型選抜の実施が理学部で始まりまし。また工学部の学校推薦型選抜に設けられている「女子枠」は2026年度入試（2025年度実施）に拡充され、現在はもともとと女性比率が高い環境土木・建築学科を除く6学科で実施されています。女子枠の合計は20人で、各学科に3〜7人の定員が設けられています。

杉山総長は受験生に向けてこう呼びかけます。「大学の4年間はあつという間に終わってしまいます。ですから、いろいろなチャレンジをしてほしいと思いますし、失敗もたくさんしてほしい。そうやって勇気ある知識人として、社会のあらゆるところに飛び立って活躍できる人材に皆さんを育てていきます。意欲のある人はぜひ名古屋大学に来てもらいたいと思います」



LYKEION研究棟（完成予想図）

PICK UP 戦略的パートナー大学（SPU）と共同で国際共修を推進

(1) Nextビジョン2027

世界と伍する研究大学を目指し、2022年に策定された27年までのビジョン。①高大接続から大学院、学び直しまでシームレスに紡ぐ国際通用性のある教育・人材育成、②世界トップ研究者が集う知の梁山泊が生み出す知の成果の創出と価値化、③世界有数の産業集積地に根ざし、新たな価値を創造しグローバル/ローカル課題の解決に貢献、④ニューノーマル時代の新たな国際展開——の4戦略を掲げる。

(2) ディープテック・シリアルイノベーションセンター

学部から大学院博士課程までを対象に、階層的に大規模で学際的なアントレプレナリシップ教育を行う。学部生向けカリキュラムとして1年次には「アントレプレナリシップ初歩」、2年次には「社会課題解決とアントレプレナリシップ」「イノベーション基礎」「シリアル・イノベーション」といった科目が用意されている。

名古屋大学は、ノースカロライナ州立大学、シンガポール国立大学、フライブルク大学、エディンバラ大学、上海交通大学の5大学を、双方向の教育・研究・産学連携活動を互恵的に推進するSPUに位置付けています。文部科学省の「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」タイプII（海外展開型）において、これらの大学に渡航する学生に対し、高度な多文化共修を実践。上海交通大学を除く4大学には名古屋大学のグローバルキャンパスも設置しています。

シンガポール国立大学とは、双方の学生が参加するスタートアップ企業でのインターンシッププログラムを24年に開始しました。また25年からはノースカロライナ州立大学との連携に基づき、教員引率型の短期受け入れプログラムを行っています。26年5月には32人の学生を6週間にわたって受け入れて、企業訪問、名古屋大学教員による講義、文化体験イベント、学生の交流会などを実施。互いの学生にとって良い刺激となっています。



（写真上）25年3月、シンガポール研修プログラムに学生15名が参加、シンガポール国立大学の学生と共に学ぶ／（下）26年5月、ノースカロライナ州立大学の学生32名を6週間受け入れ

